

平成 28 年 7 月 27 日
林 野 庁

CLTの活用を促進するための支援

1. これまでに講じた支援について

新たな建築部材であるCLTの可能性を検証し、その利用を促進するため、CLTを活用した実証的建築物の設計・施工への支援を実施。


具体的には、平成26年度から27年度までの2カ年で計17棟（CLTパネル工法6棟、部分利用11棟、（年度内に竣工したもの））の建築を支援。

<主な建築実証の例>

(1)CLTパネル工法(構造上主要な部分にCLTを使用)

所在	竣工年月	用途	階数	棟数	延べ床面積(m ²)	CLT使用量(m ³)	外観
北海道 北見市	27年 3月	研修施設	2	1	143	70 【壁、床、天井、階段】	
岡山県 真庭市	27年 3月	集合住宅	3	1	281	123 【壁、床、天井、屋根】	
高知県 四万十町	27年 5月	寄宿舎	2	1	723	274 【壁、床、天井】	

(2)部分利用(床、壁、屋根等にCLTを活用)

所在	竣工年月	用途	階数	棟数	延べ床面積(m ²)	CLT使用量(m ³)	外観
埼玉県 加須市	28年 3月	事務所	2	1	252	34 【天井、床仕上げ、外壁仕上げ】	
神奈川県 藤沢市	27年 5月	診療所 兼住宅	2	1	107	8 【床】	
岡山県 倉敷市	28年 3月	住宅 展示場	2	1	203	66 【壁、床、天井】	
岡山県 真庭市	28年 3月	宿泊施設	2	1	57	57 【壁、床、屋根】	

2. 平成 28 年度の支援について

(1) CLT普及に向けた取組

国土交通省と連携しつつ、以下の取組を実施・支援。

① CLT普及促進

- ・ CLT 関連告示等解説書の作成及び講習会の開催
- ・ 設計施工マニュアルの作成及び講習会の開催

② CLT強度データの収集

- ・ 基準強度告示の充実に向けた、規格、樹種別強度データの収集

③ CLT等接合部データ収集

- ・ 既存鉄筋コンクリート建築の耐震補強に適用できる CLT 耐震補強壁の拡大

④ 耐火部材開発

- ・ 鉄骨造に適用する CLT 2 時間耐火床構造の詳細の検討

(2) 実証的建築への支援

平成 28 年度当初予算、平成 27 年度補正予算の活用等により、奈良県の障害者福祉施設など、17 棟（うち CLT パネル工法 7 棟、部分利用 10 棟、一部竣工済み）の建築を支援予定。

(3) 平成 29 年度以降の CLT を活用した建築物の整備見込み

CLT の活用促進に向け、CLT を活用した建築物の相談への対応、意向の把握等に務めてきたところ。

現在、CLT を活用した建築の可能性のある案件として、補助事業への応募や個別の相談等により、林野庁として把握しているものは、計 32 件、事業費で 64 億円余。

なお、これらがすべて整備された場合の CLT の利用量は、8 千 m³ 超。林野庁による平成 29 年度以降の支援の仕方については、検討中。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会関連施設へのCLTの活用

1 大会関連施設における木材利用について

大会関連施設へのCLT活用の見込みについては、次のとおり。

(1) 新国立競技場

屋外の案内サインや選手ロッカーの間仕切り等にCLTが利用される予定。

(2) 東京都が整備する協議会場(有明アリーナ等)

木材を利用することは決定しているが、現時点においてはCLTを利用することについて予定なし。

(3) 選手村ビレッジプラザ(仮設)

これまで、(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会に対して、CLTのメリットなどを周知し、その活用を促してきたところ。

この結果、7月21日に公募が開始されたビレッジプラザについては、「木造」で設計されることとなり、大会後の後利用(移築等)のしやすさに配慮した計画とするとされたことから、今後、CLT利用の可能性があるところ。

2 CLTの活用方法等についての周知徹底

平成28年7月21日(木)に開催された「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会における木材利用等に関するワーキングチーム(第3回)」において、林野庁から、CLTがリサイクル・リユース可能なこと等について、事例を紹介しつつ説明・周知(別添)したところであるが、今後とも、本資料も活用し、リサイクル・リユースの周知を行っていく考え。

【ワーキングチーム構成員】

内閣官房、スポーツ庁、農林水産省、林野庁、国土交通省(官庁営繕部)、
国土交通省(住宅局)、東京都、
(公財)東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会、
事務局：内閣官房、林野庁

CLTを巡る動向について

林野庁

平成28年7月21日

1. 東京オリパラ関連施設におけるCLTの活用について

- 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会は、我が国の木材の良さと、木材利用に係る技術等を国内外へ積極的にPRしていく絶好の機会。
- オリパラ組織委員会の木材の調達基準においてCLTが位置づけられるなど、仮設施設をはじめとする関連施設においてもCLTの活用が期待。

過去の大会におけるCLTを用いた建築事例

USA House(ソチ冬季大会(2014年))

■ 木材利用の概要

- アメリカの大会関係者のための宿泊施設、報道センターを木造仮設施設として整備。
- CLTパネル工法で建築(木材使用量約1320m³(推計))。
- ソチ五輪以前のオーストリア・スキー世界大会でメディアセンターとして使われたものを再利用。



東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会による持続可能性に配慮した木材の調達基準(抜粋)

1. 本調達基準の対象は以下の木材とする。
 - ア 建設材料として使用する製材、集成材、直交集成板、合板、単板積層材、フローリング
 - イ 建設に用いられるコンクリート型枠合板
 - ウ 家具に使用する木材(製材端材や建設廃材等を再生利用するものを除く)

2. 東京オリパラ関連施設におけるCLTの活用イメージ

□ CLTパネル工法や部分利用で利用したCLTはリサイクル・リユースが可能。

CLT仮設施設のリサイクル・リユース事例

東京ビックサイトで開催されたイベント「エネマネハウス2014」において建設された木造仮設住宅を展示終了後恒設建築物として地方へ移設。

慶應型共進化住宅(慶應義塾大学)



移設



仮設時はCLTパネル工法で建築されたが、展示後は慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスへ木造軸組工法(CLTは非耐力壁として使用)の恒設建築物として移設

母の家2030(芝浦工業大学)



移設



仮設時及び移設後も木造軸組工法(CLTは非耐力壁として使用)の建築物。展示後は福島県会津若松市への恒設建築物として移設

3. CLT活用促進に向けた取り組みについて

□ 東京オリンピック・パラリンピックで設置するCLTを活用した仮設物について、移設・再利用により地方公共団体等の各種施設として、活用が可能であるといった情報を広く提供することについて検討中。

全国各地の木材の活用のイメージ

